

市民のよりどころとなる新庁舎整備を



民主・護憲クラブ
森田 義孝 議員

て、学び直しの支援を行うこととされている。

誰一人取り残さない学びの保障の具体的な内容は。

答 昭和教室の活用はもと

より、校内教育支援センター、ハートフルルームの設置、地区公民館へのサテライトスペースの開設、市費によるスクールカウンセラーの配置を進めている。

また、ICTの活用や民間施設等との連携を通して、児童生徒や保護者に必要な支援を行うなど、社会総がかりで不登校児童生徒を支援するシステムを構築し、誰一人取り残さない学びの保障に努めている。

市庁舎整備の基本計画策定に向けた考え方とプロセス

問 新・庁舎整備に関する基本方針では、将来を見据えた「機能性」と「経済性」の両立を基本とし、大牟田市庁舎整備基本構想を本年度中に策定することとなっている。

基本計画策定に向けての考え方とプロセスは。

答 大牟田市庁舎整備基本構想（案）においては、基本理念、庁舎全体の規模、既存庁舎などの取扱い、新庁舎の敷地、事業手法など、事業の大枠に関する議論を進めている。

令和7年度から着手する予

定にしている基本計画については、これらの内容をより具体化することを想定している。

主な内容としては、市民窓口や執務室など、機能ごとの床面積や、防災、構造、環境、設備などの性能について検討を進めることとなる。

再発言 新庁舎整備に当たっては、議会や市民、行政職員からの意見をしっかりと反映することが必要不可欠であり、その機会の提供と行政の説明責任を果たすことが重要。

「まちとともに育まれ、市民のよりどころとなる庁舎」を目指すとともに、庁舎のコンパクト化や事業費の縮減などに向けた、さらなる検討を進め、市民が納得できるような基本計画の策定となることを強く要望する。



大牟田市動物園整備基本計画の進捗状況

問 動物園整備基本計画の進捗状況は。

答 今後、整備基本計画を踏まえつつ、事業費の精査や整備内容等の再検討を行う。

また、活用できる財源についても検討が必要と考える。

令和6年度市の方針と主な事業の考え方

問 市の方針として、三つのまちづくり、「若者が夢を持って働くまちづくり」、「子育て世代に魅力的なまちづくり」、「誰もが安心して元気に暮らせるまちづくり」と、二つの約束、「まちなか再生による活性化」、「災害につよいまちづくり」の実現に向けた主な事業を掲げられている。

令和6年度の方針と主な事業について、市長の考えは。

答 延命公園を中心とした、にぎわい交流エリアの創出をはじめ、官民連携による未来ビジョンに基づくまちなかの活性化、イノベーション創出拠点や新大牟田駅産業団地を活用したIT企業・ものづくり企業等の企業誘致、さらには、流域治水の観点を含めた排水対策などの取組を進める。

誰一人取り残さない学びの保障の具体的な内容

問 誰一人取り残さない学びの保障では、不登校生徒の多様な学びの場の確保や、夜間中学「ほしぞら分校」におい